

第7次粉じん障害防止 総合対策について



新たにじん肺の所見がみられた労働者の数は、粉じん障害防止規則が全面施行された昭和56年と比べ、大幅に減少し、平成18年においては252人となっているものの、近年は横ばい傾向となっています。

厚生労働省では、粉じん障害防止対策をより一層推進するため、第7次粉じん障害防止総合対策（平成20年度～平成24年度）を策定しました。

今後、事業者の方におかれましては、この総合対策に基づき、粉じん障害防止のための措置を徹底するとともに、粉じん作業に従事する労働者の方も、事業者が講じる措置の実施に協力しましょう。

第7次粉じん障害防止総合対策の重点事項

- 1 ずい道等建設工事における粉じん障害防止対策
- 2 アーク溶接作業にかかる粉じん障害防止対策
- 3 金属等の研ま作業にかかる粉じん障害防止対策
- 4 離職後の健康管理

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

じん肺について

① じん肺とは

主として小さな土ぼこりや金属の粒などの無機物または鉱物性の粉じんの発生する環境で仕事をしている方が、その粉じんを長い年月にわたって多量に吸い込むことで、肺の組織が線維化し、硬くなって弾力性を失ってしまった病気をじん肺といいます。

② じん肺の症状

じん肺の初期症状は息切れ・咳・痰が増えるなどですが、進行すると肺の組織が壊され、呼吸困難を引き起こします。また、気管支炎、肺がん、気胸などの合併症にかかりやすくなるので注意が必要です。粉じん作業を行っているときは気づかなくても、じん肺の症状は数年から十数年かけてゆっくりと進行します。

③ じん肺の治療

いったんじん肺にかかると、粉じん作業をやめたあとも病気は進行します。じん肺そのものについては、現在、治療の方法がありません。咳に対しては鎮咳剤、痰に対しては去痰剤、呼吸困難に対しては酸素療法など症状に応じた治療が中心となります。

いったんじん肺にかかるともとの正常な肺にはもどらず、粉じん作業をやめた後も病気は進行します。さらにじん肺を治す根本的な治療がないことを考えると、粉じんの発生源対策、局所排気装置等の適正な稼働、呼吸用保護具の適正な着用などにより粉じんへのばく露防止対策を徹底することが重要です。



左) 正常な肺

右) じん肺
(粉じんの吸入により肺が黒くなっている。)

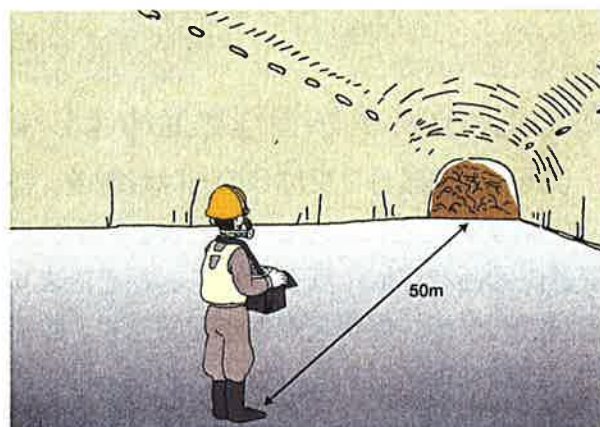
事業者が重点的に講ずべき措置の概要

1 すい道等建設工事における粉じん障害防止対策を進めましょう。

平成20年3月に施行された粉じん障害防止規則等の改正内容を含んだ新しい「すい道等建設工事における粉じん対策に関するガイドライン」に基づく対策を徹底しましょう。

<ガイドラインの主な内容>

- 換気装置による換気の実施等
- 換気の実施等の効果を確認するための、ガイドラインで定めた方式による粉じん濃度測定の実施及びその結果に応じた換気装置の風量の増加その他必要な措置の実施
- コンクリート等を吹き付ける場所における作業等に従事する労働者に対する電動ファン付き呼吸用保護具の使用
- 発破の作業を行った場合において、発破による粉じんが適当に薄められた後でなければ発破をした箇所に労働者を近寄らせない措置



2 アーク溶接作業にかかる粉じん障害防止対策を進めましょう。

アーク溶接作業については未だに粉じん作業であるという認識が低いことから、アーク溶接作業が粉じん作業であり、この作業に従事する労働者は有効な呼吸用保護具の着用が必要であることなどを記したものを、アーク溶接作業場の見やすい場所へ掲示するとともに、「保護具着用管理責任者」を選任し、呼吸用保護具の適正な選択、使用及び保守管理を推進しましょう。



3 金属等の研ま作業にかかる粉じん障害防止対策を進めましょう。

局所排気装置の設置等粉じん発生源に対する措置を徹底するとともに、「検査・点検責任者」を選任し、局所排気装置等の適正な稼働並びに検査及び点検を実施しましょう。

また、特別教育等を実施するとともに、「たい積粉じん清掃責任者」を選任し、たい積粉じん除去のための清掃を推進しましょう。



4 健康管理対策を進めましょう。

じん肺健康診断の実施はじん肺法に基づき事業者に義務づけられています。労働者の健康管理のためじん肺健康診断を実施しましょう。また、じん肺有所見者の方に対してはリーフレット「日常生活において気をつけること～じん肺と診断された方のために～」などを活用して禁煙など健康管理を進めましょう。

5 退職後の健康管理を進めましょう。

じん肺管理区分2又は3の方は退職後、都道府県労働局に申請することにより、健康管理手帳が交付され、無料で健康診断を年に1回受けることができます。じん肺は経過が長く長期的な健康管理が重要です。退職する方に対して、健康管理手帳制度についてお知らせ下さい。

詳しくは都道府県労働局にお問い合わせ下さい。



厚生労働省ホームページ

◆第7次粉じん障害防止総合対策の推進について

(<http://www.jaish.gr.jp/anzen/hor/hombun/hor1-49/hor1-49-28-1-0.htm>)

◆ずい道等建設工事における粉じん対策に関するガイドラインの概要

(<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/080529-1.html>)

◆健康管理手帳制度について

(<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/sekimen/techo/index.html>)

詳しくは、最寄りの都道府県労働局労働基準部労働衛生主務課又は労働基準監督署へお問い合わせ下さい。

日常生活において気をつけること

～じん肺と診断された方のために～

● じん肺とは



左)正常肺 右)じん肺(粉じんの吸入により肺が黒くなっている。)

主として小さな土ぼこりや金属の粒などの無機物または鉱物性の粉じんの発生する環境で仕事をしている方が、その粉じんを長い年月にわたって多量に吸い込むことで、肺の組織が線維化し、硬くなって弾力性を失ってしまった病気をじん肺といいます。

じん肺の初期症状は息切れ・咳・痰が増えるなどですが、進行すると肺の組織が壊され、呼吸困難を引き起こします。また、気管支炎、肺がん、気胸などの合併症にかかりやすくなるので注意が必要です。粉じん作業を行っているときは気づかなくても、じん肺の症状は数年から十数年かけてゆっくりと進行します。

● 日常生活での注意事項

じん肺の所見のある方は、じん肺の進行を防ぎ、また、じん肺の合併症を予防するためにも、適切な健康管理を行う必要があります。ここに記載したポイントは、日常生活で特に心がけ、実行しなければならないことです。

- 1 禁煙する(※)
- 2 かぜ(感冒)に注意する
- 3 バランスのとれた食事をとる
- 4 規則正しい生活を心がける
- 5 適度な運動を心がける
- 6 痰を積極的に出す



※喫煙はじん肺を悪化させるだけでなく、心臓病や脳卒中などをおこす危険をもたらし、肺がんなどのがんの発生率も高めます。禁煙治療については保険適用の認められている治療法もありますので、医師に相談しましょう。

● 症状の変化に気をつけましょう

次のような症状の変化に気づいたり、人に指摘されたときは早めに医師に相談しましょう。

- 1 息切れがひどくなった
- 2 咳、痰が以前に比べて増えたり、痰の色が変わった
- 3 痰に血液が混ざった
- 4 顔色が悪いと注意されたり、爪の色が紫色に見える
- 5 顔がはれぼったい、手足がむくむ、体重が急に増えた
- 6 激しい動悸がする
- 7 かぜがなかなか治らない
- 8 微熱が続く
- 9 寝床に横になると息が苦しい
- 10 食欲がなくなった、急にやせた
- 11 やたらに眠い

